

令和6年度 学校評価表(計画・**中間**・最終)

【 5月末・**11月末**・3月初旬 】

学校名(熊野第三小学校)

a 学校教育目標	自ら鍛え つよく かしこく 自ら磨く やさしい子	b 経営理念 ミッション・ビジョン	熊野町教育行政方針「学ぶ力と豊かな心の実現」 共に高まり合う 熊三小 学校文化の創造
-------------	-----------------------------------	-------------------------	---

評価計画(5月末提出)					自己評価				学校運営協議会委員による評価			n改善方策			
c 中期経営目標 (3年後を見据えて)	d 短期経営目標 (今年度)	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	h 10月	h 2月	i 達成度 i=h/g	j 評価 A~D 4段階 評価	k 結果と課題の説明 (短期経営目標につ いての評価結果)	l 自己評価に関する評価 (関係者評価者の合計人数)			m コメント	10月	2月
					イ 適正	ロ 不適 正				ハ 分 か ら な い					
・ ・ ・ 健確豊 やかな かな学 心体 力の 育成	学びを深める子(わ かる・できる・やりたい 力)の育成	・「やりたい!!」が あふれる学校づくり ~ポジティブ行動 支援を通して~	・「やりたい!!」を後押しす る学習指導の工夫 ・体力・健康・安全に関する 学びの充実 ・よりよい集団をつくるため の取組の進化	80%	80.2% ア:84.9% イ:75.8% ウ:80.0%		100.3 ア:106.2 イ:94.8 ウ:100	A	・児童は自分で選択肢を選 んで学習に取り組み、自身 の理解につながったと感じ ている。 ・児童の実態に応じた本時 の選択肢について明確に なりつつあるが、その効果 の実感については、児童と 教師との隔りがある。 ・ロング屋休憩や体育館遊 びを計画的に行った。保健 朝会や生活リズムチェック では、学校医や保護者を 巻き込んだ取組を行うこと ができた。 ・熊三サーキットの徹底や 体育館での体育科授業づ くりの工夫が必要である。 ・年度当初から縦割り班で の活動を取り入れたこと により、異学年交流が進ん だが、その中での望ましい行 動についてのフィードバッ クは十分ではない。				・ラーンユニットを回す こと、特にアウトプットと 適用題を意識した授業 を組み立てる。 ・熊三サーキットや準備 運動の中に体を使った 遊びを取り入れること で、運動することの楽し さを感じさせ主運動へ つなげていく。 ・時間を確保したり視点 を与えたりして、異学年 交流での望ましい行動 をフィードバックしてい く。 ・SWPBS推進委員会を 中心に、データを基にし た支援方法などについ て、意思決定していく ことをさらに充実してい く。		
その他	児童 教職員 保護 者 地域と共に創る 学校文化の創造	1 学校を「触れ合 い」「憩い」の場 に 2 「子供基点」の 豊かな教育活動の 展開	1-①CSルームの活用の工 夫 1-②くまSUNクラブ・くまSUN 寄合の充実 2-①生活科・総合的な学習 の時間への地域人材の活 用	80%	77.8% エ:98.0% オ:57.5%		97.3 エ:122.5 オ:71.9	B	・学校だよりや広報「く まの」、CS担当教員に よるCSだより等を通じ て、CSの取組について 情報発信を行った。 ・運営委員会のCS担当 児童がくまSUNクラブ・ 寄合のチラシを作成し、 多数の参加者があつた。 ・年間指導計画に沿っ て、生活科や総合的な 学習の時間に地域人 材を活用した。 ・CSの取組に対する教 職員の当事者意識に は差がある。				・引き続きCSの取組 について保護者や地 域へ情報発信を行う とともに、教職員が 当事者意識をもってCS の取組に参画できる よう取組状況を可視 化する。 ・年間指導計画を基 に、各学年学期に1 回以上は地域人材を 活用していく。		

j評価 A~D 4段階評価

- A: 100 ≤ (目標達成)
- B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
- C: 60 ≤ (もう少し) < 80
- D: (できていない) < 60

学び続ける力の育成 思いやりの深化 学校・地域の連携強化